第７課　奉仕型の指導者

【暗唱聖句】

「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです」

第一ペテロ5:7

【今週のテーマ】

聖霊の特別な働きによって始まった初代教会ですが、教会内には様々な問題もあり、体制を整える必要がありました。そこで執事や長老などが立てられていきました。彼らの特徴は奉仕型の指導者たちであったことです。これは今日の教会においても同様です。

【日曜日　初代教会の長老たち】

長老をはじめとする教会の主な指導者たちが、教会が形成されていく初期の頃から立てられていきました。これは使徒たちだけでは教会の働きが追い付かないほど急速に主の御業が進展していったことが背景にあります。実際、どのような問題が教会の中に起きていたのか、いくつかの聖句から推察することができます。

①「そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである」使徒6:1

外国で暮らし、母国語のヘブライ語を話すことができないやめもたちが軽んじられてしまうということがあり、そのことで混乱がありました。これは言葉が話せないことからくる誤解も多分にあったのかもしれませんし、生活習慣の違いから起きた問題かもしれません。このような問題に対処するために執事が立てられていきました。

②「ところが、ファリサイ派から信者になった人が数名立って、「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」と言った」使徒15:5

異邦人クリスチャンにも割礼を受けさせるべきかどうかは、当時の教会にとって大きな問題でした。民族の違いが、生活文化の違いが初代教会において最初の障壁となっていったことがわかります。単一民族国家である日本も同じような問題が時々生じます。

このような様々な問題を適切に解決するために「教会ごとに長老たちが任命」（使徒言行録14:23）されていきました。長老は、「神の羊の群れを牧し、強制されてではなく、神に従って、自ら進んで世話をすること。卑しい利得のためにではなく献身的に仕えること」（第一ペテロ5:2参照）が求められました。そのため全時間を教会の働きのために捧げる長老たちは、教会が彼らの生活を支えるようになっていきます。

「よく指導している長老たち、特に御言葉と教えのために労苦している長老たちは二倍の報酬を受けるにふさわしい、と考えるべきです」第一テモテ5:17

現在の牧師や教団の働き人などがこれにあたります。そして、その働きの結果、長老たちには「大牧者がお見えになるとき、しぼむことのない栄冠を受けることになる」（第一ペテロ5:4参照）と約束されました。

【月曜日　長老】

「さて、わたしは長老の一人として、また、キリストの受難の証人、やがて現れる栄光にあずかる者として、あなたがたのうちの長老たちに勧めます」第一ペテロ5:1

ペテロは自分も長老の一人として、あなた方長老たちに進めますと語っています。そして、同時に「キリストの受難の証人」として、さらに「やがて現れる栄光にあずかる者」として語っています。このような言い方を通して、他の長老たちに対しても、キリストの十字架をよく理解し、来るべき栄光を期待することを求めているわけです。それは長老たちが自分たちにゆだねられている神の羊の群れを良く牧するようになるためです。（第一ペテロ5:2）。羊は時として一人で勝手にさ迷ってしまうことがあります。長老はそのような羊をきちんと監督し、群れの中に戻さなければなりません。そのためにも常に主に尋ね、良き模範となることが求められています。

「群れを養う者は愚かになり主を尋ね求めることをしない。それゆえ、彼らはよく見守ることをせず群れはことごとく散らされる」エレミヤ10:21

長老として召されるならば、このようなみ言葉の理解のもとに、とても謙遜にさせられることでしょう。教会の羊は、自分の羊ではなく、みな神様の羊です。だから、神様に祈り尋ね、み言葉に聞き、どのように羊たちを世話をすべきか知恵と力、導きをいただくことなし、その群れを正しく導くことはできません。

【火曜日　奉仕型の指導】

「ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。むしろ、群れの模範になりなさい」（第一ペテロ5:3）。

長老をはじめとする教会の指導者は、特別な権力を手にしているわけではありません。教会はよく会社ではないと例えられることがあります。教会ではみなが自由意志で奉仕をしており、上司と部下という関係があるわけではないということを例えているわけですが、むしろ天国とはどのような世界なのかということを想像してみるとより厳粛な気持ちにさせられます。聖書が教える指導者の態度とは天国における指導者の態度であり、それは人から仕えられる地位を得たのではなく、逆に人に仕えるものになることを意味しており、奉仕するために指導者として召されているのです。イエス様のお姿を通して指導者とはどのような者でなければならないかがわかることでしょう。「（イエス様）仕えられるためではなく仕えるために、しかも、多くの人の身代金として自分の命を捧げるために来られたのです」（マタイ20:28）。

【水曜日　謙遜を身につけ】

「神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになるからです。だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい」第一ペテロ5:5,6

聖書の時代は階級制度があり、謙遜に生きるということが良いこととは必ずしも考えられてはいませんでした。そのような時代背景の中で、ペテロは上に立つものこそ、この謙遜を身に付けなければならないことを教えています。その方法は、神様の力強い御手の下に身を置くことです。神様の圧倒的な存在を前に高ぶることのできる者はありません。しかも、神様は愛と謙遜の限りをもってわたしたちに接してくださるのです。

なぜ、わたしたちは謙遜に生きるべきなのか、それは、それが主の御心であり、神の国に生きる者の原則だからです。謙遜でへりくだる者には、やがて来るべき日には、謙遜に生きる者に神様は恵みを与えてくださることでしょう。

「主は不遜な者を嘲り、へりくだる人に恵みを賜る」箴言3:34

【木曜日　ほえたける獅子】

「身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています」第一ペテロ5:8

なぜ、神様を信じて忠実に生きているにも関わらず様々な困難があるのか、それは悪魔が存在し、食い尽くそうとしているからだと聖書は言います。悪魔の存在を認めなければ、理解できないことがこの世界には無数にあり、わたしたち自身にも大きな悪い影響を与えてきます。悪魔の力を過小評価してはなりません。

　しかし、悪魔との戦いに対して、主はすでに勝利してくださっています。ゆえに、恐れる必要はありません。ペテロは「信仰にしっかり踏みとどまって、悪魔に抵抗しなさい」（第一ペテロ5:9）と教えています。やがて主は、「わたしたちを完全な者とし、強め、力づけ、揺らぐことがないようにしてくださいます」（第一ペテロ5:10）。